

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	青少年の社会参加・体験活動の機会づくりに要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	135青少年の健全育成	担当課室長	桂本 弘明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	隔年事業の北海道ホームステイや他の事業で関係団体と連携し、子ども達への体験活動を提供することで、ふるさと意識醸成や地域全体で子ども達を見守り育てる意識向上を図る。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	各団体の支援者や、行事への参加者を増加させるため、学校や保護者等に対する広報に努める。
②①に基づく取組み結果	北海道ファームステイでは、参加した子供たちはスケールの大きな農業体験をするなど貴重な体験をすることができた。また、各団体の事業では、高校生がボランティアで参加するなど、地域の様々な世代で子どもたちを見守り育てる意識づけができた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	青少年及び関係団体	意図(対象をどうするのか)	青少年健全育成及び団体の活性化
②事務事業の概要	青少年への自然体験・社会体験の機会提供及び地域ボランティア、関係団体の活動支援			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	家庭状況の変化等で青少年の異年齢交流、自然及び社会体験等の社会形成に必要な機会が減少し、その機会を事業として求めるニーズは年々高まっている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	北海道ファームステイでは、参加した子どもたちはスケールの大きな農業体験をするなど貴重な体験をすることができた。また、各団体の事業では、高校生がボランティアで参加するなど、地域の様々な世代で子どもたちを見守り育てる意識づけができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	元気っ子ゼミナール参加者数	59	60	60	人	業務取得
	ii	成人の日記念行事実行委員会議数	24	19	12	回	業務取得
	iii	各団体活動数	152	147	122	回	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳			令和元年度予算	
事業費(千円)	5,008	6,033	金額(千円)		内容	6,147	
	国支出金(千円)		966		成人式会場設営		
	県支出金(千円)	235	374		成人式記念行事	235	
	市債その他(千円)		2,408		青少年教育関係		
	一般財源(千円)	4,773	5,798			5,912	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	社会のモラルが多様化する中で、学校・家庭以外でも地域全体の教育力での青少年の育みが見直される中、地域の支援者及び子ども会等団体の減少が見られる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	団体等に交付している補助金に係る用途や提出書類について見直し、適正な運用となるよう指導を行っていく。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	生涯学習推進センターの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	2	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	12いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	桂本 弘明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	公共施設予約システムを円滑に更新する。また、市民へ生涯学習情報を提供するため、掲示物等の工夫を継続し快適で魅力ある施設運営を行う。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	公共施設予約システムの安定した運用を図る。また、市民へ生涯学習情報を提供するため、掲示物等の工夫を継続し快適で魅力ある施設運営を行う。
②①に基づく取り組み結果	公共施設予約システムの更新を行った。また、快適に施設利用できるよう適正な施設管理を行うとともに、時期に即した展示物等を工夫し生涯学習情報の提供を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	一般市民 関係機関職員	意図(対象をどうするのか)	活力ある生涯学習社会の実現
②事務事業の概要	生涯学習施設の供用及び生涯学習情報の提供			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	自己実現の場として、さらには社会参加への機会の場として、利用者は増加し、学習意欲の多様化が進んでいくものと推察される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	後期基本計画成果目標値・経済性・機能性をふまえ公共施設予約システムの更新を行った。また、市民の興味を喚起するよう手作りによる学習情報の掲示物を展示し情報提供した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	生涯学習推進センター利用件数	1,835	1,857	1,904	件	業務取得
	ii	インターネットアクセス件数	120,997	209,970	238,814	件	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	37,027	35,566	金額(千円)	内容	33,302		
国支出金(千円)			10,859	使用料及び賃借料			
県支出金(千円)			10,170	賃金			
市債その他(千円)			6,668	需用費			
一般財源(千円)	37,027	35,566	6,006	委託料	33,302		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	年々市民の学習意欲の多様化・専門化が進んでおり、学習機会の増加が求められていることに加え、生涯学習活動への取り組みの中で現代的・社会的課題の解決への期待が高まっている。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	コスト削減のための人員体制や組織の統廃合を進める中で、多様な学習要求に対し、これまで実施している事業などを組み合わせ現代的・社会的課題の解決を踏まえながらサービスの向上を図るため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H29⇒30繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当	
	令和元年度への繰越額(単位:千円)			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学習センターの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	12いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	桂本 弘明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	「人材育成」の視点をより強く持って、事業を実施していく。企画委員の意識を醸成するための一つに、魅力ある事業を職員側が数多く提案することも必要であることから、職員間の情報共有を図りつつ職員の勉強会を実施する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	市民の学習ニーズ・社会的課題解決などを視野に、魅力ある事業を提供できるよう関係機関との連携を深める。
②①に基づく取り組み結果	各学習センターでの講座やイベントでは、活躍している市内の人材を講師に迎えるなど、人材育成・ふるさと意識の醸成に繋がった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	一般市民	意図(対象をどうするのか)	活力ある生涯学習社会の実現
②事務事業の概要	コスト削減のため、人員体制や事業の改善等を行いつつ、地域の学習拠点としての有効性を高める。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	学習意欲の拡大、学習サークルへの参加によって、さらに学習センターを生涯学習の場として利用する市民が増えるものと推察される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	各学習センターの市民企画委員による講座やイベントにおいて、各学習センターとの情報提供・情報共有を深め、活躍している市内の人材を探し事業に結び付け、人材育成・ふるさと意識の醸成に繋がった。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	延べ主催講座参加者数	20,550	20,288	19,175	人	業務取得
	ii	延べ施設利用者数	296,191	297,917	290,891	人	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	83,851	89,504	金額(千円)	内容	96,782		
国支出金(千円)			89,504	市内5館の管理運営に要する経費			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	83,851	89,504			96,782		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	学習ニーズの多様化・専門化及び学習意欲の向上から、こうした希望に応える講座提供が求められる。市民との企画事業については、企画委員の継続的確保が課題である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	地域の生涯学習の拠点として、市民ニーズにフレキシブルに対応できる講座内容の立案を行う必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	令和元年度への繰越額(単位:千円)				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	非行防止対策の推進に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	5	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	135青少年の健全育成	担当課室長	桂本 弘明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	不審者の注意喚起として「子ども安全メール」の発信や、地域との連携で子どもの安全を見守る「こども110番の家」に加え、新たに「かまがや83+運動」の啓発をはかり、地域で子どもを見守る意識醸成を図る。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	関係機関と連携し、街頭パトロール、子ども達や保護者からの相談受け付け、「かまがや83+運動」の推進などを重点として活動する。
②①に基づく取組み結果	各種会議及び行事において「かまがや83+運動」、「こども110番の家」についての啓発を行った結果、「こども110番の家」の設置件数は前年比22件の増となり、地域での見守り活動への意識の高揚が図られた結果、「子ども安全メール」の配信件数が前年比で6件の減となった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の青少年	意図(対象をどうするのか)	①非行の早期発見、早期指導により青少年の非行を防止する。②速やかに情報を発信し、青少年の安全を確保する。
②事務事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の非行防止を図る。</li> <li>子ども達の安全確保を図るため、子ども安全メールを発信する。</li> </ul>			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学生による殺人事件の発生等、犯罪、犯行の低年齢化が進んでいる反面、小中学生が犯罪被害者となる事件が数多く発生している。</li> <li>子ども安全メールの発信に伴う情報提供の迅速化や、「こども110番の家」の増設の要望がある。</li> </ul>			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	各種会議及び行事において「かまがや83+運動」、「こども110番の家」についての啓発を行った結果、「こども110番の家」の設置件数は前年比22件の増となり、地域での見守り活動への意識の高揚が図られた結果、「子ども安全メール」の配信件数が前年比で6件の減となった。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	子ども安全メール登録者数	5,543	5,528	5,471	人	業務取得
	ii	地域見守り活動従事者	1,234	1,405	1,397	人	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	6,667	6,475	金額(千円)	内容	6,824		
国支出金(千円)			2,208	社会教育指導員報酬			
県支出金(千円)	250	3,543	2,733	プロジェクトマネージャー報酬	250		
市債その他(千円)			684	青少年補導員報酬			
一般財源(千円)	6,417	2,932	176	補導員連絡協議会補助金	6,574		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	今後、ますます低年齢層による非行が増加するとともに、犯罪被害者となるケースも増えるものと思われる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	家庭、学校、地域又は関係機関との連携を図りながら、補導活動への協力や、子ども達の安全に関心を持ってもらうなど、地域ぐるみで子ども達を見守り、子ども達が心身ともに安全な生活を送れる環境整備を継続して実施していく必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H29→30繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由	令和元年度への繰越額(単位:千円)			



令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	図書館蔵書・資料整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	4	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくれます	担当課室	生涯学習推進課			
施策	12いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	谷口 光儀			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	児童が読書をすることに興味を持つよう市内小学校1年生に図書館の利用案内などを配布する。シニア世代の憩いの場として各種事業を推進する。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	新たな取組みとして、朗読会の実施や、赤ちゃんの登録事業の実施をし、図書館利用の周知や促進を図る。
②①に基づく取組み結果	市内小学校1年生に図書館の利用案内を配布した。また、市民・シニア向け事業の実施をした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	図書館利用者	意図(対象をどうするのか)	利用者の多様なニーズに応えるため、図書館資料の質的向上を図る。
②事務事業の概要	多様化・高度化する学習欲求に対応するため、図書館資料・蔵書の充実を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	昭和49年10月に条例を設置し業務を開始。その後昭和52年に市役所旧庁舎へ改修・移転し、昭和62年に現在地に図書館本館を建設した。また、利用者がより身近に利用できるよう、分館を整備した。今後も本館・分館の資料の充実を図る。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	一般図書5,584冊、児童図書2,265冊、視聴覚資料131点を購入することにより、平成30年度末の蔵書数は、303,624冊となった。					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 蔵書数	303,599	301,619	303,624	冊	業務取得
	ii 図書購入数	7,998	8,140	7,849	冊	業務取得
	iii 図書貸出数	397,206	405,089	386,476	冊	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	14,997	15,000	金額(千円)	内容	15,500	
国支出金(千円)			9,995	一般図書購入:5584冊		
県支出金(千円)			4,008	児童図書購入:2265冊		
市債その他(千円)			997	視聴覚資料購入:131点		
一般財源(千円)	14,997	15,000			15,500	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	様々な分野において図書、視聴覚資料の充実が求められている。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	利用者の多様化するニーズに対応するために各種分野に及ぶ図書、視聴覚資料の精査・検証が必要であるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	図書資料購入	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	資料収集基準に基づき図書・視聴覚資料を選定・購入	15,000	15,000	当初	15,000	15,000	H29からの繰越	0
				H29⇒30繰越	0		現年分	15,000
				補正	0			
③達成状況	完了			流用・充当	0			
④未完了・非着手の理由		令和元年度への繰越額(単位:千円) 0						

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	図書館情報ネットワーク整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	4	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	12いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	谷口光儀			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	31年1月の図書館システムの更新に向けて、システム構築を実施する。館内の利用者用の蔵書検索端末機や図書館ホームページのリニューアルにより、利用者により多くの情報を提供する。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	蔵書公開システムや図書館ホームページのさらなる充実を図り、利用者により多くの情報を提供する。
②①に基づく取組み結果	図書館システム更新とホームページリニューアルを実施し、東部分館に蔵書検索端末機1台の設置をした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	図書館利用者	意図(対象をどうするのか)	利用者の利便性の向上のため、市民・利用者が必要とする図書資料や情報を迅速かつ的確に提供する。
②事務事業の概要	インターネットを利用した蔵書データベースの検索及び貸出予約システムを運用する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	利用者の利便性の向上のため、市民・利用者が必要とする図書資料や情報を迅速かつ的確に提供していく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	図書館ホームページアクセス数 172,049件 インターネット予約数 35,012件						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	ホームページアクセス数	168,501	174,277	172,049	件	業務取得
	ii	予約リクエスト数	43,442	48,143	47,321	件	業務取得
	iii	延べ利用者数	120,872	123,135	117,509	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	8,306	8,034	金額(千円)	内容		0	
国支出金(千円)			1249	プロバイダー回線使用料			
県支出金(千円)			166	電話代			
市債その他(千円)			6084	図書館システム使用料			
一般財源(千円)	8,306	8,034	535	インターネット検索・予約システム使用料			

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	インターネットの普及による情報化社会に対応するため、図書館情報システムのさらなる充実を図る。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	利用者が自宅にいながら図書の検索や予約ができるシステムや図書館館内での検索システムは、今後さらに充実させ拡大していく必要性があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	図書館システム運用	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	図書館システムの更新を実施した。	10,147	10,147	当初	10,147	8,034	H29からの繰越	0
				H28⇒29繰越	0		現年分	8,034
				補正	0			
③達成状況	完了			流用・充当	0			
④未完了・非着手の理由		令和元年度への繰越額(単位:千円) 0						

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	図書館改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	4	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	12いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	谷口光儀			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	適正な施設の管理運営のため、エレベーター改修工事設計委託を実施する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	エレベーター改修工事を実施する。
②①に基づく取り組み結果	非常用照明設備改修工事と、エレベーター改修工事設計委託を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	図書館利用者	意図(対象をどうするのか)	適正な施設管理運営により、利用者の方に快適に図書館をご利用いただく。
②事務事業の概要	経年劣化した図書館のエレベーター改修工事設計委託を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	図書館は昭和62年4月に開館以来31年を経過し、エレベーターの経年劣化による改修工事の他、老朽化した建物の外壁工事等の改修工事が今後も計画的に必要であると予想される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	非常用照明設備改修工事と、エレベーター改修工事設計委託を行った。					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 工事件数	3	1	1	件	業務取得
	ii 必要箇所	3	1	1	箇所	業務取得
	iii 延べ利用人数	120,872	123,135	117,509	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	76,364	6,934	金額(千円)	内容	18,502	
国支出金(千円)			702	エレベーター改修工事設計委託		
県支出金(千円)			6,232	非常用照明設備改修工事		
市債その他(千円)	59,400				13,800	
一般財源(千円)	16,964	6,934			4,702	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	図書館の経年劣化の進捗に伴う改修が必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	適正な施設の管理運営のため、非常用照明設備改修工事を行い、エレベーター改修工事設計委託を実施したため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	エレベーター改修工事設計委託を実施した。	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額	決算額				
②計画に対する事業実績	非常用照明設備改修工事と、エレベーター改修工事設計委託	1,145	7,734	当初	1,145	6,934	H29からの繰越	0
				補正	6,589		現年分	6,934
③達成状況	完了			流用・充当	0			
④未完了・非着手の理由		令和元年度への繰越額(単位:千円) 0						